

その① 通報と救急—家族が倒れたら—

春彼岸会
特別企画

いざという時どうするか

二〇〇七年の春彼岸会法座、二十七日は高橋義則（呉市消防署員）さんにお越しいただきました。高橋さんは、救急の現場で活躍されながら、また本願寺派僧侶（宮原正円寺衆徒）でもあり、連研など、仏法の現場でも活躍の方です。今回の研修では、難しいことは省いて、できるだけ簡単に、大切なところだけご指導いただきました。

① 通報する

さて、いざという時（誰かが倒れて意識がない時）に、まず大事なことは、通報するということです。私（編集者）は、まず私たちでできる救急

処置をするのかと思つていましたが、そうではなくて、まず通報する（消防署へ電話して救急車を呼ぶ）ことが一番だそうです。

② 息をしているか

そして、次に息をしているかを確認します。しかし、実際の場面では、焦つてしまつ



広島県医師会ホームページより転載

て、何が何だか分からなくなつてしまします。脈の有無（心臓が動いているか否か）を確認することも大切ですが、容易ではありません。

そこで、何はともあれ、舞い上がった私たちにもできる簡単なこと、息をしているかどうかを確認する方法を教えてくださいました。

上図のように顔を相手の鼻に近づけて、頬で息を感じたり、耳で音聞いたり、目でお腹が動いているか見たりして確認します。

そして、呼吸が確認できなかつたら、とにかく、

③ 心臓マッサージ

をすることを指導いただきました。心臓マッサージの途中で、人工呼吸を何回交ぜるとか言われると、わけが分からなくなるので、とにかく救急隊が来るまで心臓マッサージをしてくださいということでした。スピードは一分間に百回、



広島県医師会ホームページより転載

「んぐりころころ」を歌いながらすると良いとのことでした。救急隊員が駆けつけるまでの十分間の対応で、全然違うということでした。

その他、最近デパート等でよく見かける、いわゆる電気ショック、AED（自動体外式除細動器）の使い方も教えていただきました。

